

4. 災害緊急等の物資の輸送、避難ルートの変化

平成 16 年 10 月 23 日に発生した新潟県中越地震では、高速道路や国道・県道など多数の箇所が被災し通行不能となった。そのため、救援物資を運ぶ緊急車両が被災地に入ることができなくなり、通行可能となるまでに高速道路では 19 時間、国道では約 2 日かかった。

木曽地域においても、昭和 59 年にマグニチュード 6.9 の長野県西部地震が発生しており、今後も同規模の地震が起きることは否定できない。その際、現在の緊急時の輸送、避難ルートは国道 19 号を南北に結ぶルートしかなく、しかも、山間部であるため、被害状況によっては復旧するまでに多大な時間がかかる可能性がある。

伊那木曽連絡道路の開通は、現在、国道 19 号しかなかった木曽地域の緊急輸送、避難ルートに新たなルートを追加することとなり、また、高規格道路として整備されることから災害に強く、その役割は非常に大きい。